

令和5年度

全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要



令和5年10月

柳川市教育委員会

令和5年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

－ 目 次 －

I 調査の概要	2
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査日及び調査教科	
4 調査内容	
II 学力調査結果の概要	
全国学力・学習状況調査の結果	3
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学、英語）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学、英語）	
福岡県学力調査の結果	6
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
III まとめと今後の取組	8
1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針	
2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題	
3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想	

※ 付記

全国学力・学習状況調査の「学力調査問題」及び「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」の内容及び令和5年度の全国の調査結果と福岡県の調査結果は、以下のホームページにてご参照ください。

○ 全国学力・学習状況調査の問題及び結果（既に掲載）

国立教育政策研究所

教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」 URL : <http://www.nier.go.jp/>

○ 福岡県学力調査の結果（福岡県教育委員会ホームページに掲載予定）

福岡県教育委員会 義務教育課

「令和5年度全国学力・学習状況調査結果報告書、福岡県学力調査結果報告書」

URL : <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/r1houkokusho.html>

令和5年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、柳川市教育施策に基づく取組の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

○ 全国学力・学習状況調査	・ 小学校 (全 19 校) 第 6 学年の児童 ・ 中学校 (全 6 校) 第 3 学年の生徒	508 名 471 名
○ 福岡県学力調査	・ 小学校 (全 19 校) 第 5 学年の児童 ・ 中学校 (全 6 校) 第 1 学年の生徒 ・ 中学校 (全 6 校) 第 2 学年の生徒	521 名 517 名 451 名

3 調査日及び調査教科

調査種別	調査日	調査教科及び項目
○ 全国学力・学習状況調査	令和 5 年 4 月 18 日 (火)	国語(小・中)、算数(小)、数学(中)、英語(中)
○ 福岡県学力調査	令和 5 年 6 月 20 日 (火)	国語(小・中)、算数(小)、数学(中)

4 調査内容

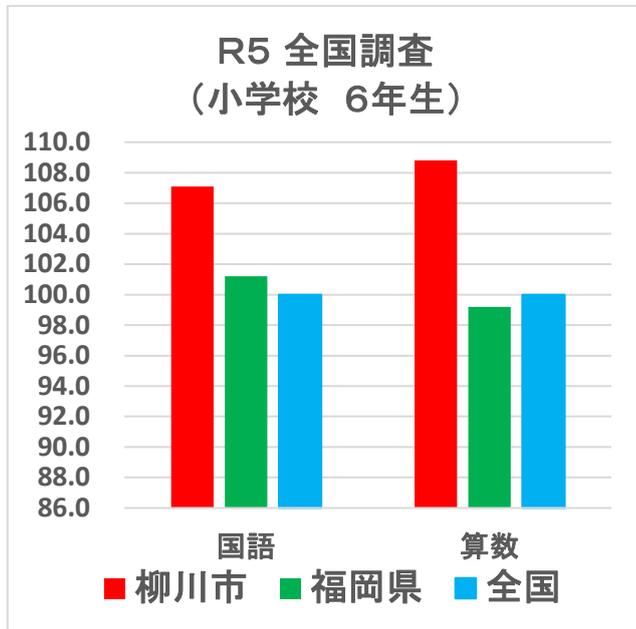
- (1) 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- (2) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のために構想を立て実践し、評価・改善する力 等

II 学力の結果

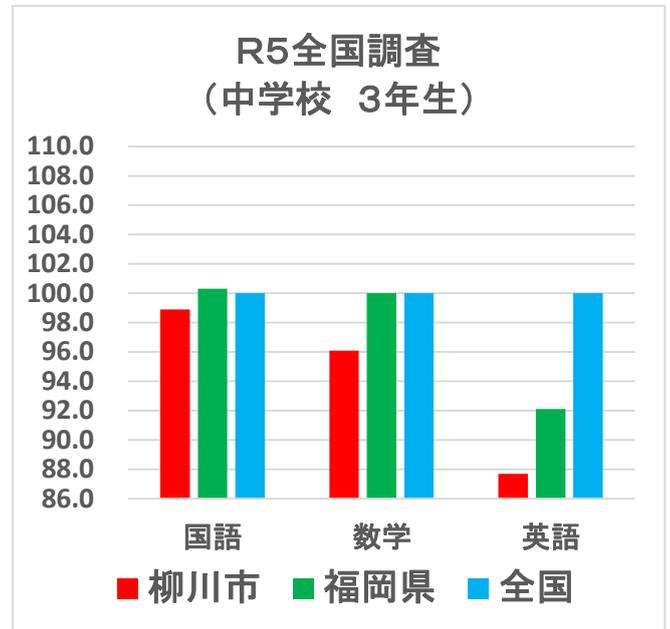
全国学力状況調査の結果

1 柳川市の平均正答率（全国比：全国=100%）の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学、理科）

小学校



中学校



小学校	国語	算数
柳川市	107.1	108.8
福岡県	101.2	99.2
全国	100.0	100.0

中学校	国語	数学	英語
柳川市	98.9	96.1	87.7
福岡県	100.3	100.0	92.1
全国	100.0	100.0	100.0

【全体の状況】

- 小学校は、国語、算数ともに全国を上回っており、令和4年度より国語、算数ともに向上している。国語、算数ともに依然として高い状況にある。（令和4年度の柳川市の平均 国語106.7 算数106.0）
- 中学校は、国語、算数、英語ともに全国平均を下回っている。令和4年度より国語、数学は向上しているが、英語は、低い状況である。（令和4年度の柳川市の平均 国語98.6 数学93.4）
- 平均無回答率（回答していない問題）は、小学校では国語、算数の全ての問題において全国より低い。中学校の無回答率では、国語で15問中2問、数学で15問中2問が全国より高ったが、英語の無回答率は全て全国より低かった。

【小学校】

- 国語は全国より7.1ポイント上回った。内容別では、「話すこと・聞くこと」が7.5、「書くこと」が11.1、「読むこと」が8.2全国を上回った。評価の観点では、知識・技能が2.0、思考力・判断力・表現力が8.2全国を上回った。
- 算数は全国より8.8ポイント上回った。「数と計算」「図形」「測定、変化と関係」「データの活用」の全ての領域で全国を上回った。評価の観点では、知識・技能が3.95、思考・判断・表現が6.8ポイント全国より高かった。

【中学校】

- 国語は全国より1.1ポイント下回った。令和4年度より0.3ポイント向上した。
- 数学は全国より3.9ポイント下回った。令和4年度より2.7ポイント向上した。
- 英語は全国より12.3ポイント下回った。評価の観点では、知識・技能が5.0ポイント、思考・判断・表現が5.2ポイント全国より下回った。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学、英語）

（1）小学校国語

- 学習指導要領の内容では、知識・技能、思考力・判断力・表現力等とも全国より正答率が高い。評価の観点の知識・技能では2.0ポイント、思考・判断・表現では8.2ポイント上回り、良好である。
- 問題形式では、選択式、記述式の正答率が全国より高い。特に、記述式では、全国より正答率が13.2ポイント上回っていた。
- 「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つける」は、正答率が全国を6.8ポイント上回り、良好である。
- 「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」は、正答率が全国を14.3ポイント上回り、良好である。
- 「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」は、正答率が全国を14.4ポイント上回り、良好である。
- 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」は、正答率が全国を2.1ポイント下回り、課題である。
- 「図表やグラフ等を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」は、正答率が全国を11.1ポイント上回っているが、正答率が37.8ポイントと低く課題である。

（2）小学校算数

- 領域別では、どの領域も全国より正答率が高い。「数と計算」は5.5ポイント、「図形」は4.6ポイント、「変化と関係」は2.7ポイント、「データの活用」は7.0ポイント全国を上回り、良好である。
- 16の問題の内、14の問題が全国を上回っている。全般的に理解の定着が進んでいる。
- 問題形式では、選択式、短答式、記述式の全て正答率が全国より高い。特に、記述式では、全国より正答率が8.6ポイント上回っていた。
- 「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる」は、正答率が全国を8.9ポイント上回り、良好である。
- 「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する」は、正答率が全国を13.9ポイント上回り、良好である。
- 「正三角形の意味や性質について理解している」は、正答率が全国と変わらないが、正答率が24.4%しかなく、課題である。

（3）中学校国語

- 思考力、判断力、表現力等では、「話すこと、聞くこと」は正答率が全国より1.5ポイント上回っている。しかし、「書くこと」は1.3ポイント、「読むこと」は3.3ポイント、全国の正答率を下回っている。特に、読む能力に課題がある。
- 「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる」は、正答率が全国を2.6ポイント上回り、良好である。
- 「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する」が全国より8.4ポイント下回り、課題である。
- 「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える」が全国より5.7ポイント下回り、課題である。
- 「具体と抽象など情報と情報との関係について理解している」は、正答率が全国より5.3ポイント下回り、課題である。

(4) 中学校数学

- 領域別では、どの領域も全国より正答率が低い。「数と式」は1.0ポイント、「図形」は、6.2ポイント、「関数」は1.7ポイント、「データの活用」は1.7ポイント全国の正答率を下回った。
- 「数と整数の乗法の計算ができる」の正答率は、全国を4.4ポイント上回り、良好である。
- 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」の正答率は、全国を3.6ポイント上回っている。
- 「自然数の意味を理解している」の正答率は、全国を12.3ポイント下回り、課題である。
- 「累積度数の意味を理解している」の正答率は、全国を10.2ポイント下回り、課題である。
- 「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる」の正答率は、27.6%であるとともに、全国を4.5ポイント下回り、課題である。

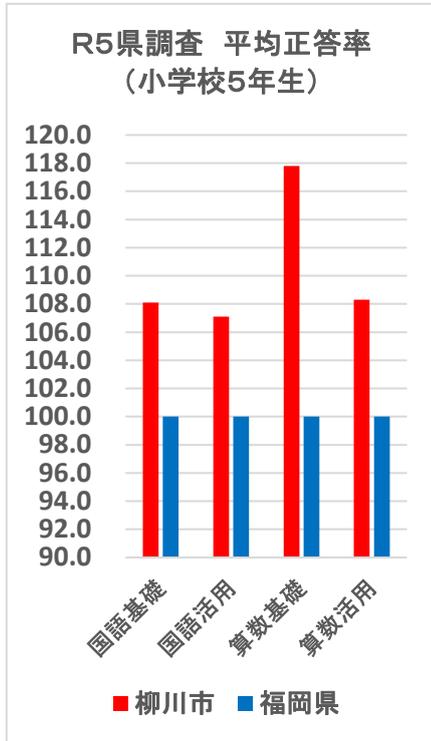
(5) 中学校英語

- 領域別では、どの領域も全国より正答率が低い。「書くこと」は4.9ポイント、「読むこと」は4.7ポイント、「書くこと」は6.0ポイント下回り、課題である。
- 17の問題の内、「社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができる」の正答率は全国を1.4ポイント上回るが、残り16の問題が全国を下回っている。
- 「日常的な話題について、短い文章の要点を捉えることができる」の正答率は、全国を8.9ポイント下回り、課題である。
- 「疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確にかくことができる」の正答率は、全国を8.4ポイント下回り、課題である。
- 「日常的な話題について、自分の置かれた状況等から判断して、必要な情報を読み取る」の正答率は、全国を10.3ポイント下回るとともに、25.6%と低く、課題である。

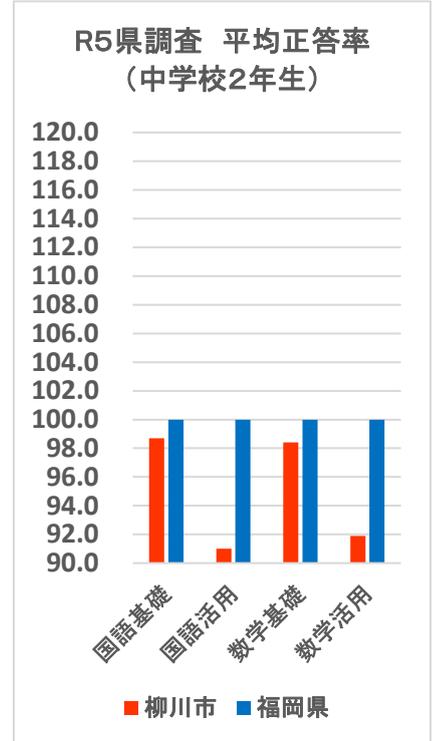
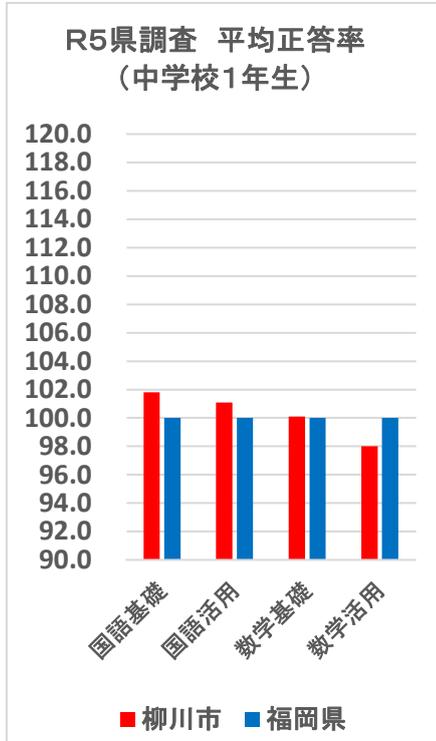
福岡県学力調査の結果

1 柳川市の平均正答率（県比：県＝100%）の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）

小学校



中学校



小学5年	国語基礎	国語活用	算数基礎	算数活用
柳川市	108.1	107.1	117.8	108.3
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	8.1	7.1	17.8	8.3

中学1年	国語基礎	国語活用	数学基礎	数学活用
柳川市	101.8	101.1	100.1	98.0
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	1.8	1.1	0.1	-2.0

中学2年	国語基礎	国語活用	数学基礎	数学活用
柳川市	98.7	91.0	98.4	91.9
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	-1.3	-9.0	-1.6	-8.1

【全体の状況】

- 小学校5年生においては、国語、算数の基礎・活用問題の全てが県を上回っている（+7.1ポイント～+17.8ポイント）。
- 中学校1年生においては、国語の基礎・活用、数学の基礎は県を上回っている（+0.1～1.1ポイント）。数学の活用は県を下回っている（-2.0ポイント）。
- 中学校2年生においては、国語、数学の基礎・活用の全てが県を下回っている。（-1.3ポイント～-8.1ポイント）。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

(1) 小学校5年生

【国語】

- 「文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと」は、県正答率を7.2ポイント上回っている。
- 「文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができる。」は、県正答率を7.7ポイント上回っている。
- 「考えを支える事例を明確にして、書き表し方の工夫を捉えることができる」は、県正答率を7.6ポイント上回っている。

- 「聞き取りメモをふまえた意見の内容を捉えることができる」は、県正答率を4.2ポイント下回り、期待正答率に37.2ポイント届いていない。

【算数】

- 「平行四辺形の性質について理解し、角度を求めることができる」は、県正答率を26.5ポイント上回っている。
- 「折れ線グラフを正しく読み取ることができる」は、県正答率を10.1ポイント上回っている。
- 「与えられた条件から、乗法や除法に必要な分量を求め、判断が正しい理由を説明することができる」は、県正答率を7.2ポイント上回っている。
- 「割合の意味について理解している」は、県正答率を11.0ポイント下回り、期待正答率に38.9ポイント届いていない。

(2) 中学校 1 年生

【国語】

- 「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることができる」は、県正答率を5.4ポイント上回っている。
- 「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる」は、県正答率を2.8ポイント上回っている。
- 「文と文との接続の関係について理解することができる」は、県正答率を4.9ポイント上回っているが、期待正答率を32.5ポイント下回っている。
- 「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる」は、県正答率を4.4ポイント下回っており、期待正答率に20.8ポイント届いていない。

【数学】

- 「小数÷小数（余りあり）の計算をする」は、県正答率を9.1ポイント上回っている。
- 「道のりと時間の関係について理解している」は、県正答率を1.5ポイント上回り、期待正答率を5.12ポイント上回っている。
- 「示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を記述することができる」は、県正答率を3.3ポイント下回っており、期待正答率に11.4ポイント届かない。
- 「基準量と割合から比較量を求めることができる」は、県正答率を2.2ポイント下回り、期待正答率を36.2ポイント下回っている。

(3) 中学校 2 年生

【国語】

- 「学年別漢字配当表に示されている漢字を読むことができる」は、県正答率を0.2ポイント上回っている。
- 「自分の考えや根拠が明確になるように、事実と意見との関係に注意して、話の構成を考えることができる」は、県正答率を8.2ポイント下回っている。
- 「文章の内容を、叙述を基に捉え、要旨を把握することができる」は、県正答率を4.9ポイント下回っており、期待正答率に34.5ポイント届いていない。
- 「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる」は、県正答率を7.0ポイント下回っており、期待正答率に9.2ポイント届いていない。

【数学】

- 「正負の分数の加減の計算ができる」は、県正答率を3.7ポイント上回っている。
- 「度数分布表をもとに、ある階級までの累積相対度数を求めることができる」は、県正答率を4.4ポイント上回っているが、期待正答率に43.2ポイント届いていない。
- 「適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる」は、県正答率を2.3ポイント下回っており、期待正答率に14.4ポイント届いていない。
- 「事象をグラフに即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる」は、県正答率を6.8ポイント下回っており、期待正答率に20.2ポイント届いていない。

Ⅲ まとめと今後の取組

1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針

柳川市総合計画、柳川市教育大綱、教育施策に基づき、小・中学校が連携した「中学校区スタンダード」の実践による基盤づくりを図りながら、確かな学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）を身につけさせ、未来の柳川を担う子どもを育成すること。

2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題

(1) 小学校

- R元年からR3年度の共通実践項目の「国語科教育の充実」及び、R4年度の「算数科教育の充実」を共通実践に掲げて、全小学校で教師の学びの場を校内研修(主題研修または一般研修)に位置付けたり、学習のまとめを徹底したりして取り組んだことが、今年度の学力調査でも全国や福岡県を大きく上回った要因のひとつと考えられる。
- R4から継続しているR5年度の共通実践項目の「算数科教育の充実」に向けて、確かな教材研究に基づく授業実践の積み上げと、学力調査結果の分析をもとにした授業改善が大切である。併せて、校内研修等で授業改善への取組の共通理解と共通実践の徹底を図る必要がある。

(2) 中学校

- 全国学力調査の国語及び、数学では、R4年度と比べて伸びてきている。全中学校において、職員の学習指導のPDCA力の育成、小集団を活用した学習指導の取組が学力の向上につながってきている。
- 学校間、教科間、学年間の格差があるが、全中学校で落ち着いた学校生活を送っている。しかし、全体としてみると学力がやや下降傾向にあるため、教師の授業力のさらなる向上は課題である。授業研究を伴う研修の強化が求められる。
- R5年度の共通実践項目の「生徒の主体的な活動をつくる授業実践」に向けて、日常授業の中で、生徒の実態を捉えた授業準備、自力解決の充実と個を生かした表現活動の積み上げが大切である。併せて、学力調査結果の分析をもとにした授業改善に向けて、共通理解を図り、実践につなげる必要がある。

(3) 小・中学校共通

- 本市が重視している計画・実施・評価・改善の教育活動が各学校で実施されている。また、児童・生徒のよい点や可能性を見だし、評価する取組もしっかりと推進されており、学力向上に結びついていることが伺える。
- 全校において学力分析から確実に学力を向上させるための取組指標や成果指標等の学力向上プランが策定され、取り組まれている。今後、CD層の児童生徒を対象とした授業改善、組織的対応が求められる。
- 中学校区内において、近接小・中学校と授業研究会等の合同研修会を年間3回以上実施し、共通的に取り組む内容等として「中学校区スタンダード」に取り組んだことが学力向上に結びついていると考える。今後も継続的な取組が求められる。
- 小・中学校共に、学力調査において無回答率が減ってきている。今後も学力向上を支える基盤づくりも大切にしながら、児童生徒が将来の夢や目標を持つこと、自尊感情や自己肯定感を持って「学校が楽しい」と主体的に学ぶ意欲を高めることができるようにして、学力向上につなげていく必要がある。

(4) 家庭との連携

- 小中が連携した家庭学習の取組等が進んできている。今後さらに家庭との連携を図り、家庭における計画的な学習の進め方の確立や学習時間の確保、読書時間の確保が求められる。
- 児童・生徒のスマートフォンの所有が増える中、それらの使用についてのルールが不十分な傾向が見られる。SNSの適切な利用の仕方やゲーム使用の時間を含めて、PTAと連携しながら取り組む必要がある。

3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想

(1) 柳川市教育委員会

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・調査結果の分析・各学校の取組状況の確認・指導・9年間を見通した小・中学校の共通実践・教育指導室による研修（主幹教諭研修会、研究主任研修会）・教育研究所プロジェクト事業の推進（プログラミング教育 小・中）・授業力向上研修会 | <ul style="list-style-type: none">・学力向上のための指導主事派遣・若年教員指導力向上訪問指導・授業時数実施状況の確認 |
|--|---|

(2) 小学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・学力調査等の結果分析をもとにした授業改善とCD層への対応・教材研究の力を向上させる校内研修の充実（模擬授業等の事前研修の充実）・中学校とのつながりを意識した教育活動の実施・若年教師の授業力の向上を図る研修会等（授業力向上研修会、OJT研修会）の実施 |
|--|

(3) 中学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・全職員による自校の学力分析をもとにした授業改善と学習指導のPDCA力の育成・模擬授業や事例研究を含めた授業を伴う実践的な研修の実施・学習状況の把握と学習定着度の見取りをもとにしたCD層への組織的対応・週案の定着と活用 |
|--|

(4) 小・中学校共通の取組

【各小・中学校で共通で実践する項目】

- | |
|---|
| <p><小・中学校></p> <ul style="list-style-type: none">◎GIGAスクール構想の推進<ul style="list-style-type: none">・交流場面におけるタブレット端末の効果的活用・学習記録のタブレット端末への保存と活用◎地域のもの・ひと・こととつながる活動の充実<ul style="list-style-type: none">・「中学校区スタンダード」の共通実践等を通じた中学校区単位での取組の推進・地域行事への参加、参画と地域人材の積極活用・可燃ごみ減量活動の家庭・地域への発信 <p><小学校></p> <ul style="list-style-type: none">◎算数科教育の充実<ul style="list-style-type: none">・確かな教材研究に基づく授業実践 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none">◎生徒の主体的な活動をつくる授業実践<ul style="list-style-type: none">・生徒の実態を捉えた授業準備 |
|---|

【教育課程外において】

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">◎補充学習の充実<ul style="list-style-type: none">・評価に基づく補充学習の充実・各学校教育課程外に位置づけているドリルタイム、補充の時間の充実、個に応じた支援◎家庭学習の充実<ul style="list-style-type: none">・家庭学習をしない児童・生徒0%を目指す取組の充実（授業との連動、確実な見取り、保護者との連携等）・タブレット端末を活用した家庭学習の工夫・スマートフォン使用の適切なルールについての啓発 |
|---|

令和5年度
全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

『調査結果報告書(柳川市)』

令和5年10月発行

発行者 柳川市教育委員会
福岡県柳川市三橋町正行431番地
電話0944-77-8852(教育指導室)
